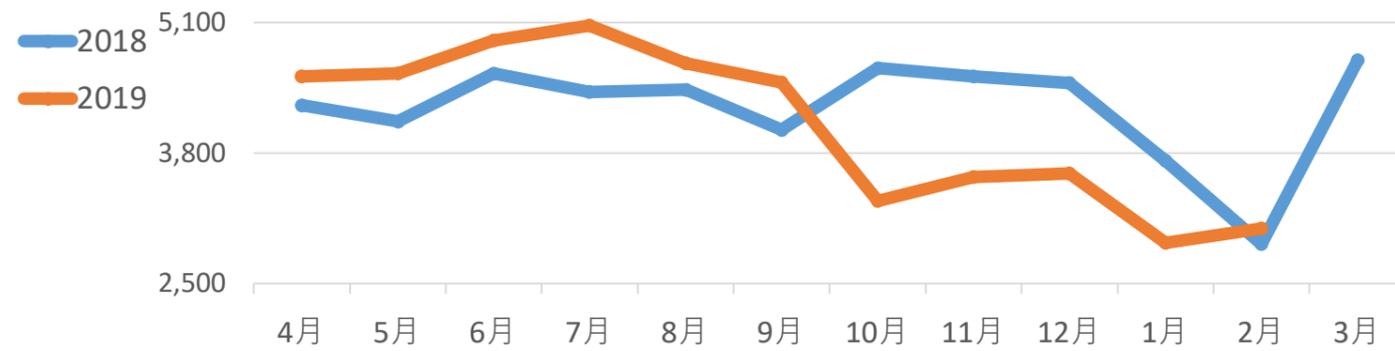


再編後の広陵元気号実績

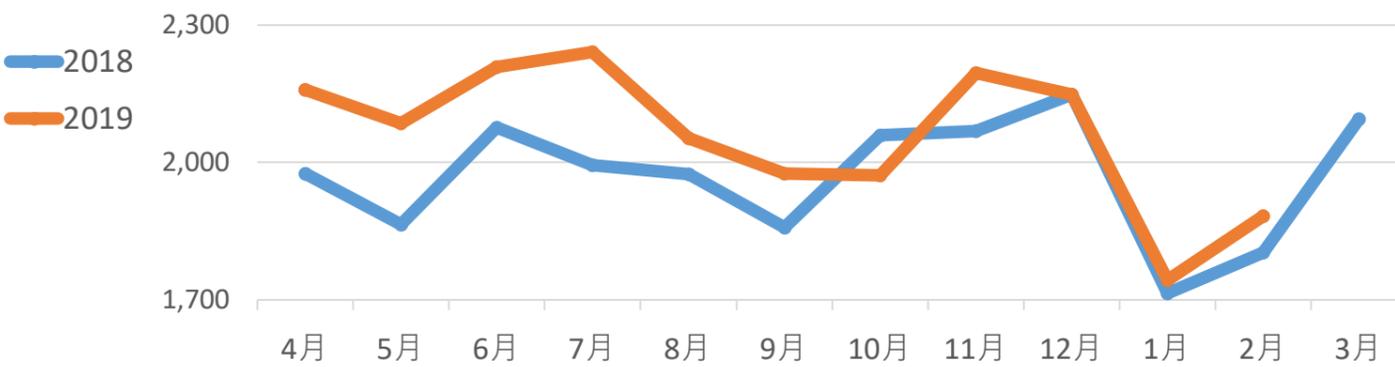
○利用数

再編（令和元年10月）後、3路線の合計利用数は昨年度と比較して減少している。要因としては、支線の利用数の減少であり、南部支線（旧北東部支線）の近鉄高田駅への接続便数が減少し、近鉄高田駅利用数が減少したことが一番の要因となっており、次いで、北部支線（旧西部支線）の利用数の減、全体的な便数の減少が影響している。

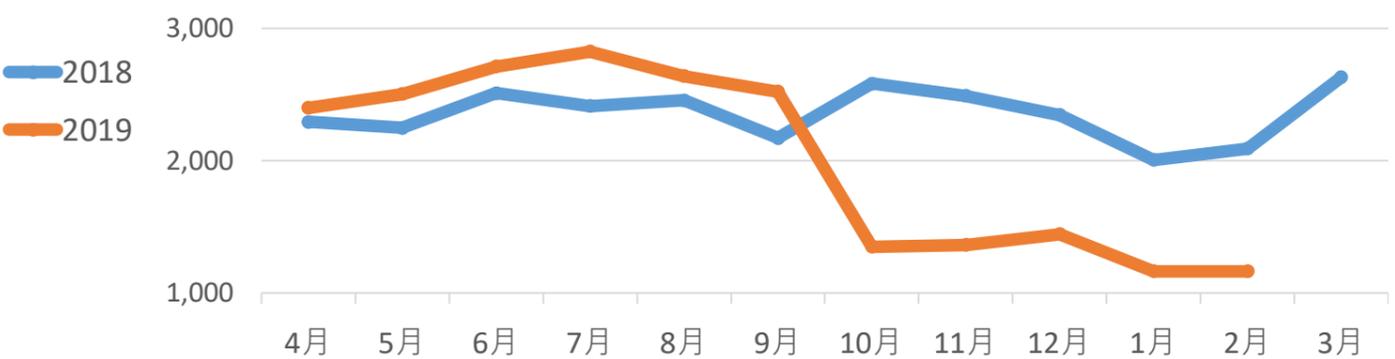
○令和元年度利用数の推移（3路線合計）



○令和元年度利用数の推移（中央幹線）

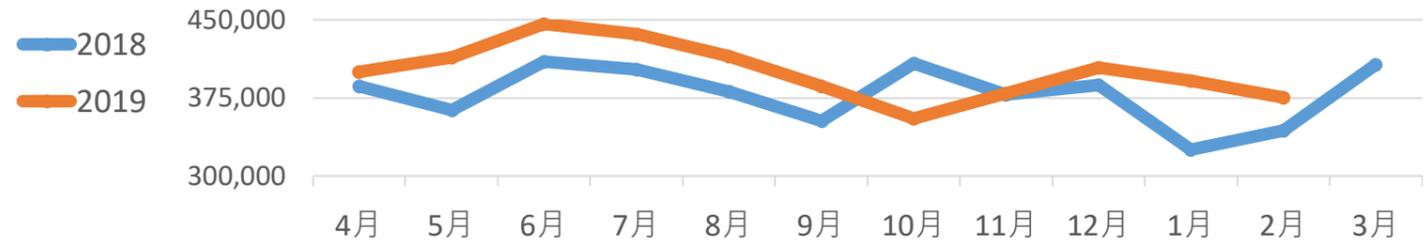


○令和元年度利用数の推移（2支線合計）



○運賃収入

利用数は減少しているものの、運賃収入は増加している。これは、近鉄高田駅利用の運賃が倍額になったこと、中央幹線の利用数が微増したことが要因である。



○利用目的別推移（3路線合計）

近鉄高田駅利用の減少要因は、南部支線の近鉄高田駅接続便数が減少した影響である。

公共施設及び商業施設の利用は、昨年度と利用数は変化無し。国保中央病院については、微減しているが、これは、夕方以降の接続をしなくなったことが要因である。

